

(令和7年度版)

結核の正しい理解 と予防のために Q & A



Q1 定期健康診断の結核検診がどのように変わったのですか？	A1 平成14年度までは、小1・中1でツベルクリン反応検査並びにBCG接種を行っていましたが、この検査で見つかる結核感染者が少ないことや、児童生徒全体の結核患者が激減していることなどから、従来の方法は廃止されて、平成15年度から小学校中学校の全児童生徒を対象とした問診による検診に変わりました。 そのため、この問診票がとても大切になります。
Q2 結核はどんな病気ですか？	A2 結核は結核菌という細菌が、人から人に感染することによって起こる感染症です。結核菌が肺に入ると肺の奥にある肺胞にまで侵入し、そこで増えて小さな核をつくります。これが結核の名称になりました。 結核菌は、患者の口から飛び出す細かいしぶき（飛沫）の中に含まれています。この菌は、飛沫の水分が蒸発して裸の状態（「飛沫核」といいます。）になった後も生きていて空中をただよい、人に吸い込まれれば感染を起こします。
Q3 結核になるとどんな症状になるのですか？	A3 結核を発病すると、咳、たん、発熱などの風邪に似た症状になります。しかも、これらの症状が2週間以上も長引いたり、良くなったり悪くなったりすることが多いのが特徴です。このような症状があれば、おうちの方や保健室の先生と相談して病院や診療所で診察を受けてください。長引く咳は赤信号です！

Q4 結核菌が肺にはいると全ての人が発病するのですか？	A4 結核菌を吸い込んでも全てが感染するわけではなく、肺まで到達する途中で、鼻やのど、気管支の粘膜にひっかかって、増殖する前に体の外に運び出されると感染しません。また、感染しても発病するのは10人に1人～2人程度です。結核菌に感染すると、体の抵抗力（免疫力）が結核菌と戦い、抵抗力が勝った場合には、発病せず、結核菌は冬眠状態になります。しかし、抵抗力が弱まったときに発病します。 令和5年に岡山県で新たに結核を発病したのは136人です。
Q5 結核は治せるのですか？	A5 かつて、結核にはきちんとした治療法がなく怖い病気とされていましたが、今では、薬を飲んだり、注射をしたりして治せる病気です。3～4種類の薬を用いるのが最も強力な治療法で、少なくとも6か月の治療が必要です。しかし、きちんとした治療を続けないと、結核菌が薬に対して抵抗力を持ってしまい、治療が難しくなります。医師の指示に従い、きちんと毎日薬を飲むことが重要です。 また、結核の検診や医療については、最寄りの保健所、支所にいつでもご相談下さい。
Q6 BCGワクチンとはどんなものですか？	A6 牛の結核菌を弱毒化してつくった結核予防のためのワクチンです。結核菌に対する免疫をつけることができます。生後5～8ヶ月の赤ちゃんに対してBCGワクチンを1回受けることが勧められています。 抵抗力の弱い赤ちゃんが結核に感染すると重症になりやすいのですが、BCGはそれを防ぐ効果があります。なお、BCGワクチンの効果は10年～15年程度ですので、一生涯結核を防ぐものではありません。咳が2週間以上続く場合は、早めに医療機関を受診することが大切です。
Q7 中学卒業後、結核の健康診断には、どのようなものがありますか？	A7 感染の危険度に応じて、高校や大学、職場、市町村などが胸部エックス線検査による健康診断を行いますので、対象となった場合には、受けるようにしましょう。また、家族や周囲の人が結核を発病した場合などには、患者の家族や友人、同僚に対して保健所が健康診断(接触者健診)を行います。
Q8 胸部エックス線写真撮影は受けても安全ですか？	A8 エックス線は放射線ですが、写真をとるための線量のごくわずかで、地球上で1年間に浴びる自然放射線の8分の1程度です。 したがって検査に必要な写真撮影を受けることで放射線障害を起こす心配はありません。健康診断を受けて早く結核を見つけることの方が健康に対する効果が大きいといえます。
Q9 結核にならないために日ごろから注意することがありますか？	A9 結核は感染症ですが、日ごろから免疫力を高めるために体力をつけておくことは大切です。 栄養、運動、休養及び睡眠などについて、良い生活習慣の実践に心がけましょう。

[参考文献:文部科学省「中学生用結核対策パンフレット」]